



1998年 11月20日

発行(社)三原青年会議所
編集/広報委員会
三原市皆実4丁目8番1号
(三原商工会議所内)
TEL(0848)63-3515
FAX(0848)62-1141
インターネットアドレス
<http://www.tako.ne.jp/~mjc/>

'98三原JCスローガン

夢・未来・創造
LOOKING FOR TOMORROW

今月号の記事

- 1面 } シリーズ・バードアイ
- 2面 } 未来への鳥瞰図 総集編
- 3面 みはらについて私はこう思う
- 4面 98ひろしまフォーラムイン三原開催される/ペットボトル/他



月日の経つのは早いもので、1998年もあと1ヶ月余りとなった。荒れ狂う「とら」の様に今年は金融不安や消費不況などの言葉がマスコミを飾ってしまった。いつになったらこの暗いトンネルを抜けるのだろうか。全国の地方自治体の8割近くが財政危機に陥っていると言う。地方分権の波が押し寄せ、地域の自立がますます求められるだろう。来年5月に西瀬戸自動車道(瀬戸内しまなみ海道)が開通する。人の流れが変わり三原のまちにも少なからず経済効果や影響を及ぼすであろう。

人が動く基本原理に「人は飯が食べる所に集まる」という言葉がある。今の三原に人を引きつける魅力がどれほどあるだろうか。来年には市民願望の三原バイパスが一部供用開始となり、道路網の基盤整備は着々と進んでいる。そんな今こそ、三原にしかない財産や魅力を掘り起こし、郵便局の跡地や内港の有効利用を検討して「人は飯が食べる所...」を新たな三原のシンボルとして創り出さねばなるまい。来年の干支の「うさぎ」の様に元気いっぱい跳びまわる、活力ある「まち」の姿を一日でも早く実現させたいものだ。

1998年やっさもっさ総集編

シリーズ バードアイ

やっさもっさ

No.253



未来への鳥瞰図

| | | |
|---------------|---------------|---|
| 2月号 February | カレーライス会 | 山本三原市長と三原JCとの懇談会「カレーライス会」。三原市の羅針盤はどこを向いているのか。 |
| 3月号 March | 新興国論 | 柴田瀬戸田町長のまちづくり論。日本中が注目するユニークな瀬戸田町のまちづくり戦略の秘密を探る。 |
| 4月号 April | 草の根市民活動 | 行政サービスの隙間を埋めるボランティア。その現状は? |
| 5月号 May | みはら復活計画 | 不況、今は昔「四国の玄関口三原」...。停滞する「みはら」を復活させるにはどうすればよいか。 |
| 6月号 June | モニター会 | 市民の視点から見たまちづくりとは? 「やっさもっさ」のモニターの皆さんが熱く語る。 |
| 7月号 July | リサイクル先進地、小野田市 | 市民と行政が力を合やす小野田流リサイクル。環境保全への熱意が私達を感動させる。 |
| 8月号 August | 広域連携 | まちとまちが力を合わせれば、大きな力になる。 |
| 9月号 September | 広域合併 | 21世紀へのパスワード「広域合併」。地方分権社会を生き残るには? |
| 10月号 October | 理想の高齢者介護システム | 超高齢社会は目前、決して他人事ではない高齢者介護を考える。 |

「市民が主役」って何?

驚にでもなった気で空から見ると、いろいろと見えて来ます。ここでいくつか紹介してみましょう。

→ “邪道が正道”!?

激動の世紀末、今まで正しいと思ってきた価値観が根元からぐらついていきます。もしかしたら邪道と言われていたことが、21世紀には正道になるかもしれません。瀬戸田町や小野田市では、今までの行政とは違った動きを見せています。今の閉塞感を打破するには、過去のしがらみを捨て社会構造そのものを改革してゆかなければならないのではないのでしょうか。斬新で大胆な発想をするコペルニクスが何人もいるまち、そんなまちが21世紀にはきらりと輝くとは思いませんか。

→ どう書く? 未来の脚本

屋さんと言う商店が減っているそうです。おもちゃ屋で紙おむつを売り、マツキヨと言う薬屋さんは中高生文化の発信地になっています。現行の枠組みの中だけしか発想できない商店は、時代の変化にとり残されてしまう恐れがあります。

まちづくりも同じことが言えるでしょう。環境や福祉、教育など様々な問題において、市民

や企業、行政の枠を越えたネットワークの必要性が叫ばれています。まちづくりは行政の仕事と言った枠組みでは、時代のニーズに応えることが難しくなっているようです。まちに住む全ての人がまちづくりの主役、そんな脚本がみはらにも必要なのではないでしょうか。

→ “デビュー! 新委員会”

国に頼れた中央集権から、自立が求められる地方分権になると言います。だからこそ市民が主役で、斬新で大胆な発想でまちを運営してゆかなければなりません。しかし市民から見えないところで施策が決められていては主役にはなれません。またせっかく良いアイデアを持っていても、それをまちづくりに活かせる方法がなければ宝の持ち腐れです。都市戦略を考える上で、企画の段階でガラス張りにし、市民からアイデアを吸い上げフィードバックするシステムが必要です。

1999年(社)三原青年会議所では、市民が主役のまちづくり委員会と言う新しい委員会が誕生します。市民の声がまちづくりに反映できるシステム、あるいは市民がまちづくりに参加できるシステムの構築をめざして活動してまいります。



総集編